

# 会下・郡家遺跡の弥生時代

平成30年6月30日

鳥取県埋蔵文化財センター

田中 正利

## 会下・郡家遺跡の位置

鳥取市気高町の西側、逢坂谷に位置する

弥生時代の遺構は丘陵裾の河岸段丘上にある

## 弥生時代の遺構

独立棟持柱建物、大型掘立柱建物、竪穴建物、袋状土坑、木棺墓、土坑墓

遺構の時期は弥生時代中期後葉と後期後葉に大別できる

→弥生時代後期前葉～中葉の遺構・遺物はほとんどなく、生活域が移動した？

## 独立棟持柱建物・大型掘立柱建物

掘立柱建物1－弥生時代の独立棟持柱建物としては県内最大

掘立柱建物2－北側に独立棟持柱と思われる柱穴がある

深い柱穴→長い柱を固定した可能性＝高床建物だった？

弥生時代中期の建物と推測

## 竪穴建物

後世の攪乱などで平面形がわからないものが多い

弥生時代の建物

円形→弥生時代中期後葉頃

隅丸方形→弥生時代後期後葉頃～古墳時代前期頃

中央ピットの両脇に柱穴がある建物→弥生時代中期と考える

## 袋状土坑

入り口に比べて底面が大きい土坑、断面がフラスコ状になり貯蔵穴と考えられる

大きさで大きく3つに分類できる

大・中の土坑には底面中央に小さな穴、壁際に溝が巡るものが多い

大きいものは調査区中央付近に集中する＝独立棟持柱建物と関連する？

人為的に埋め戻された土坑がある

→付近に別の袋状土坑があることが多く、掘り直しを行った可能性

使用後に土器などを一括で廃棄した土坑がある

## 木棺墓、土坑墓

県調査地南側中央に集中する箇所がある

墓壙の大きさは3つに大別できる

墓壙の中軸方向と墓の配置からで5つのグループに分けることができる

供献された土器などから弥生時代中期後葉の墓群と考える

竪穴建物、袋状土坑が近くにある→時期差があると考え

## 特殊な土壙墓

県調査地北西隅付近で検出

極端に深い(2.47m)墓壙底面に小さい(長さ0.85m)埋葬用の掘り込み

他の墓とは全く異なる構造→木棺墓群とは異なる被葬者層の可能性

## 遺構の配置

### 弥生時代中期後葉の遺構

調査域のほぼ全体に遺構が点在

竪穴建物と袋状土坑が集中する部分(直径60m程度)がいくつかある

独立棟持建物周辺には大型の袋状土坑以外はあまり遺構がない

→建物周辺が特別な空間だった可能性

### 弥生時代後期後葉

調査城南側にはほとんど遺構が見られない

中期後葉の遺構と同じように竪穴建物と袋状土坑が集中する部分がある